六中防災便り

Vol.8

2016.12.22

12 月 10 日（土）　安全指導

12 月 10 日（土）の土曜授業では、１校時から３校時まで安全指導が行われ、様々な学習を通して防災について学びました。

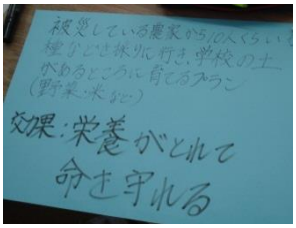
１校時は、11 月 22 日（火）の安全教育推進校公開授業に引き続き、大災害で六中が避難所になったときに、六中生ができることを考え、班ごとに「避難所活性化プラン」をまとめ、発表しました。

避難訓練に続いて行われた２校時は、学年ごとに体験学習をしました。１年生は、西新井消防署や消防団の方々に放水訓練や消火器訓練を指導していただきました。自分たちでも簡単にホースや消火器を使えることを知り、初期消火がいかに大切かを学びました。２年生は、足立区災害対策課の方々の協力により、煙体験や起震車体験、東京防災にある「長ズボンでつくるリュックサック」といった災害時に役立つ知恵や工夫の実践を行いました。３年生は、日本赤十字社の方々による、災害対応ジレンマゲーム「クロスロード」プログラムに取り組み、災害時の正解のない選択に迫られた際の判断の難しさや他人の意見に耳を傾けることの大切さを学びました。

３校時は、日本赤十字社の方による講話でした。東日本大震災の被災地の様子や首都直下型地震の被害想定の紹介を通して、減災のために自助と共助を中心とした努力がとても大切になることを教えていただきました。

今年度の安全指導の「まとめ」となる１日。様々な体験や、これまでに蓄えてきた知識を通して、災害発生時に行動を起こす力を高めることができたでしょうか。

「避難所としての六中」



10 月～12 月にかけて「避難所としての六中」という学習を行いました。六中が避難所になった際に必要な支援について、誰が行うのかという視点で整理し、避難所開設訓練の参加者との意見交換を通して、六中生ができることを考える学習でした。

１回目の授業では、９月に行われた避難所開設訓練の参加者の体験談から、避難所の様子や課題を共有しました。安全教育推進校公開授業となった２回目の授業では、１回目に考えた避難所で「困ること」をまとめ、それらの対応を誰が行うのかという視点で整理し、各班でアイデアを出し合い「避難所活性化プラン」を検討しました。そして、先日の３回目の授業で発表資料をつくり、発表を行いました。

３回の授業を終えた生徒たちのアンケートでは、「自分の知らないことがたくさんあるので、これから起こるかもしれない災害に備えて勉強していきたい」「避難時に自分たちも協力して動かなきゃいけないなと思いました」という意見が多く見られました。